

新幹線プレス

2015年6月3日 No.226

発行者 成田隆浩

編集者 教宣部

JR東海労新幹線地本

仕業検査効率化「解明要求」の早急な回答を求める！

4月に会社から提示された「車両データ活用による車両検修体制見直し」の内容は仕業検査の要員削減がその骨子であり、安全と健康を損なうことは明らかです。また、その具体的内容については不明な点が多くあり、新幹線地本は5月21日に「解明要求」の申し入れを行いました。

そんな最中、仕業検査のSEKの6月勤務表で、16日より「教育」として一名余計に張り付けられていることが明らかになりました。職場では正式な説明がない中で、仕業検査効率化の「SEKによる車内検査の見習い」があるのではないかと、の憶測がひろがり、もしそうであれば、誰の見習いに付くのか？もしJR社員の見習いに付くとしたら、偽装請負の問題などが生じるのではないかと疑問点が多くあり新幹線地本は早速、幹鉄事に対して説明を求めました。

車両データ活用による車両検修体制見直しに関する申し入れ（主たる項目抜粋）

- I 要員削減に関する項目について
- II 作業内容に関する項目について
- III 作業環境及び設備に関する項目について
- IV SEKに関する項目について
- V JR西日本編成に関する項目について
- VI 安全に関する項目について
- VII 車両データ分析センターに関する項目について
- VIII 要求に関する事項について

「教育」は見学！？それで作業をマスターできるのか？

会社回答は『SEKの教育の中身は、直営の車内検査を見学するもので、直営社員が指導したり教育するものではない。現場で事前に見学があることは点呼か何らかの方法で伝える。出向社員に対してはSEKから教育の中身についての説明が事前にあると思う。』というものでした。しかし、見学で仕事を覚えられるのか？とあらたな疑問が生じています。

労働組合軽視は許さない！

そのような回答の矢先である6月3日、会社は突如として現場での「仕業検査体制見直しの説明会」を開始しました。地本からの「解明要求」に対する回答の日程すら決まらないうちに現場での説明会を開始するという行為は、労働組合の要求をないがしろにするものであり、労働組合軽視であると言わざるをえません。このような会社の姿勢は許されません！

「SEKの教育」の問題を含めて、現場に余計な混乱を生じさせないために、解明要求に対して早急に協議の場を設定して誠意ある回答をするべきです！